

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	大学を飛び出して地域を知ろう（Introduction to Field Work） 2013022-053					担当教員	複数人		
科目区分	教養	必修・ 選択区分	必修	単 位 数	2	配当年次	2年次	開講期	前期
科目特性	地域志向科目 / 協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要

地域の現場における調査研究を通して地域課題を発見・分析するとともに、社会科学の調査研究手法であるフィールドワークおよびプレゼンテーションに関する次の基礎知識を習得することで、調査研究活動で実践できるようになることを目指す。

- ・事前調査（ホームページ、パンフレット、新聞記事等）
- ・ヒアリング調査の基本（事前準備、マナー、メモの取り方、事後処理等）
- ・調査のアポイントメントの取り方（電話のかけ方、メールの書き方、日程調整の基本等）
- ・アンケート調査の基本（目的、調査対象、設問設計、配付回収方法、集計方法）
- ・収集した情報およびデータの整理・保管方法
- ・データの定量分析および定性分析
- ・プレゼンテーション（調査結果を他者にわかりやすく伝える）

② ディプロマ・ポリシーとの関連

地域社会に貢献する姿勢 / 職業人として通用する能力 / 専門的知識・技能を活用する力
/ コミュニケーション能力 / 情報収集・分析力

③ 授業の進め方・指示事項

- ・本授業は1クラス20名程度の6クラス編成とし、各クラスに担当教員を配置する。
- ・クラスごとに教室を分けて授業を実施するが、内容により全クラス合同で実施することもある。
- ・各クラス内で3つの調査グループを構成する。
- ・外部講師を招いて地域をテーマに講義をしていただく「地域課題講演会」では、各クラスから派遣された調査グループが3つの教室に分かれて受講する。
- ・「地域課題講演会」をヒアリング調査の現場に見立て、調査の事前準備や事後処理についてグループワーク等を行い、調査計画書および調査報告書を取りまとめて提出する。
- ・これらの調査計画書および調査報告書の内容は、各クラス内でグループごとに発表し、クラス内の情報共有とプレゼンテーション技能の向上を図る。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

特になし。

⑤ 標準的な達成レベルの目安

- (i) 定性分析のために KJ 法（親和図法）等の分析手法を活用することができる。
- (ii) ヒアリング調査の基本的事項（事前準備、当日、事後処理等）について概要を説明することができる。

<p>きる。</p> <p>(iii) あらかじめ定められている書式にしたがって調査計画書および調査結果の報告書を作成することができる。</p> <p>(iv) 調査の計画や結果について資料を利用しながらわかりやすく説明することができる。</p> <p>(v) 地域課題を3つ以上取り上げてその概要を説明することができる。</p>
⑥ テキスト（教科書）
山田剛史・林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門 —研究のための8つの力』ミネルヴァ書房
⑦ 参考図書・指定図書
参考図書を必要に応じて随時紹介する

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			15%	50%	20%	15%		100%
(i) 定性分析のために KJ 法（親和図法）等の分析手法を活用することができる。				10%	5%	5%		20%
(ii) ヒアリング調査の基本的事項（事前準備、当日、事後処理等）を習得し、実際に活用することができる。			15%		5%	5%		25%
(iii) あらかじめ定められている書式にしたがって調査計画書および調査結果の報告書を作成することができる。（調査3回）				30%				30%
(iv) 調査の計画や結果について資料を利用しながらわかりやすく説明することができる。					5%	5%		10%
(v) 地域課題を3つ以上取り上げてその概要を説明することができる。				10%	5%			15%

フィードバックの方法	・提出された調査計画書および調査報告書について、優れている点、改善を要する点等の概要をフィードバックする。
------------	---

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）	
・今年度は感染症対策のため、大人数での移動を伴う現地調査を避け、学外の諸機関から講師をお招きしてお話しをいただくことでヒアリング調査の代替とします。	

⑩ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）
1	オリエンテーション クラス内他己紹介 グループ分け（3グループ）		
2	アンケート調査の基本		90分
3	KJ法（親和図法）演習 ・3グループでテーマを決めて KJ法 による整理を行う。 ・グループごとに結果発表		・ KJ法（親和図法） についての予習、テーマ検討 ・結果の図解と文書（レポート）作成 90分
4	ヒアリング調査の基礎知識 （全クラス合同）		・ヒアリング調査に関する予習・復習 90分
5	地域課題調査事前準備① （調査対象3機関の事前調査） ・グループの派遣先およびグループ内での役割の決定 ・グループワークにより対象機関に対する事前調査計画書を作成（地域課題の質問項目の検討） ・グループごとに発表し、クラス内で共有		・対象3機関に関する事前調査（Web、パンフレット等） ・対象機関に関する事前調査計画書の作成 90分
6	◆地域課題調査講演会① ・調査対象3機関の講師による講演（3教室） ・講演50分＋質疑応答30分 ・各クラスから派遣されたグループが受講 ・各グループを代表する質問者		・対象機関に関する事前調査 90分

	が質問する。			
7	<p>地域課題調査まとめ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに調査結果の振り返り及び調査報告書作成（全体の報告書に加え、全員が考察を提出） ・クラス内で全員が考察を発表 		<ul style="list-style-type: none"> ・調査報告書の作成（クラス内での質疑応答の結果についても記載する） 	90分
8	<p>地域課題調査事前準備② （調査対象3機関の事前調査）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの派遣先およびグループ内での役割の決定 ・グループワークにより対象機関に対する事前調査計画を作成（地域課題の質問項目の検討） ・グループごとに発表し、クラス内で共有 		<ul style="list-style-type: none"> ・対象3機関に関する事前調査（Web、パンフレット等） ・対象機関に関する事前調査計画書の作成 	90分
9	<p>◆地域課題調査講演会②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査対象3機関の講師による講演（3教室） ・講演50分＋質疑応答30分 ・各クラスから派遣されたグループが受講 ・各グループを代表する質問者が質問する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・対象機関に関する事前調査 	90分
10	<p>地域課題まとめ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに調査結果の振り返り及び調査報告書作成（全体の報告書に加え、全員の考察を提出） ・クラス内で全員が考察を発表 		<ul style="list-style-type: none"> ・調査報告書の作成（クラス内での質疑応答の結果についても記載する） 	90分
11	<p>地域課題調査事前準備③ （調査対象3機関の事前調査）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの派遣先およびグループ内での役割の決定 ・グループワークにより対象機関に対する事前調査計画を 		<ul style="list-style-type: none"> ・対象3機関に関する事前調査（Web、パンフレット等） ・対象機関に関する事前調査計画書の作成 	90分

	作成（地域課題の質問項目の検討） ・グループごとに発表し、クラス内で共有			
12	◆地域課題調査講演会③ ・調査対象3機関の講師による講演（3教室） ・講演50分＋質疑応答30分 ・各クラスから派遣されたグループが受講 ・各グループを代表する質問者が質問する。		・対象機関に関する事前調査	90分
13	地域課題まとめ③ ・グループごとに調査結果の振り返り及び調査報告書作成（全体の報告書に加え、全員の考察を提出） ・クラス内で全員が考察を発表		・調査報告書の作成（クラス内での質疑応答の結果についても記載する）	90分
14	学生による地域活性化プログラム活動紹介（全クラス合同）		・学生による地域活性化プログラム活動報告書による予習 ・地域課題レポート作成	90分
15	振り返り、まとめ		・地域課題レポート作成	90分

⑪ アクティブラーニングについて	
協同学修型 AL	
<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークにより調査計画書および調査報告書を作成する。 ・3回の調査において毎回グループ内の役割分担（進行、発表、記録、質問、文書作成等）を変更し、できるだけ異なる役割を体験できるように考慮する。 	

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性